

# 主題名「みんなの力で」（第5学年 C-16 よりよい学校生活、集団生活の充実）

## ■本事例のポイント

1. 教室内の学びの場をデザインすることによって、学びの主体を児童に移すファシリテーションの実現を目指した。
2. ユニット学習※を取り入れることで、学級活動と関連付けながら、学年や学級での「役割」について多面的・多角的に考察できるようにした。

※ユニット学習…テーマに基づいた複数の価値を関連付けて、複数時間で小単元化して構成する授業方法

## ■ユニット学習の目標

学級活動の時間と道徳の授業を連携させながら、自分やクラス、学年の「役割」について考える活動を通して、集団の意義や役割、責任を自覚し、高学年として充実した集団生活を構築しようとする態度を育てる。

## ■ユニット学習の指導計画（3時間）

### 第1時

「この思いをフェルトペンにたくして」

- ・登場人物の仕事への向き合い方について考える活動を通して、自分の「役割」を自覚し、責任を果たそうとすることの大切さに気付き、公共のために役立とうとする心情を育てる。

### 第2時

「二十分間の出来事」

- ・災害時に人命救助に力を注いだ二人の警察官の行動について考える活動を通して、かけがえのない命を守り抜こうとする人間の尊さに気付き、命を尊重しようとする態度を育てる。

### 第3時

「森の絵」

- ・教材を基に役割について考える活動を通して、集団を支えているのは自分たち自身であることに気付き、自分の役割を自覚し、協力して責任を果たそうとする態度を育てる。

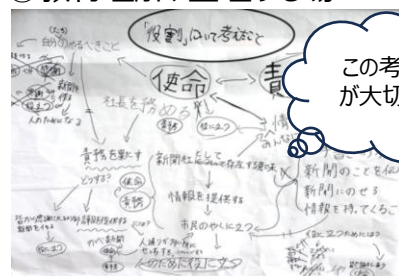
## ■本時の概要

【本時の学習テーマ】「役割を果たすとは、どういうことか考えよう。」

教室には、学びの目的に応じてデザインされた4つの学習スペースが用意されています。児童はそこから自分に合った場を主体的に選び、教師や仲間と対話を重ねながら、テーマの本質に迫ります。



### ①教材理解、整理する場



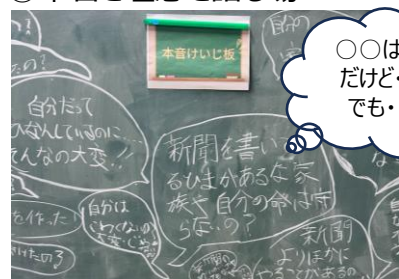
この考え方が大切だ！

### ②教師との対話から学ぶ場



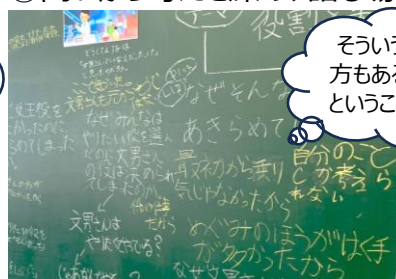
先生と話をしてみよう  
深まった！

### ③本音と理想を語る場



〇〇は大切だけど…でも…

### ④問いから考えを深め、語る場



そういう考え方もあるんだ。  
ということは～

## ■ 学習調整をしている子供の姿



他者との対話のために設定した4つのデザインスペースで情報収集、問題発見、自己決定を行っている。また、教科書を読み返しなが、思考を再構築するなど、学習調整を行っている。



自分の考えを深めたり、整理したりするために教師との対話を選択する児童の様子。

考えを整理し、自己と向き合うための一人用カウンター



数人で対話したり、協働したりできるベンチ



児童が学び方を選択できる環境づくり

## ■ 指導と評価の工夫

### ① 学級活動と道徳科を連携させたユニット学習

- \* 特別活動と複数の内容項目を関連付けたユニット学習を計画することで、全教育活動を通じて児童の道徳性を養うことができる。
- \* ユニット学習の全体を見通したワークシートと掲示物の作成。



### ② 児童が主体的に学ぶための環境づくり

- \* 教師は児童が主体的に学びを進められるよう、必要に応じて介入し、ファシリテーターとして学習の流れを支える。
- \* 教室内に、多様な学び方に対応できるよう、児童と教師が相談して柔軟にスペースをデザインする。

### ■ 成果（○）と課題（▲）

- 学び方や学ぶ相手を自分で選択し、学習テーマに向かって協働的に学ぶ姿勢を促すことができた。
- ▲ 自分に合った学習進度を適切に把握できず、迷ってしまう児童の姿が見られた。教師の考えた問いを必要に応じて確認することができる環境づくりが必要であった。



# ■ユニット学習全体を見通したワークシート（A児のワークシート）

## 大テーマ「クラス、学校の一員として自分の役割について考えよう」

9/5 「この思いをフェルトペンにたくして」	9/12 「二十一分間の出来事」	9/17 「森の絵」
授業の前に自分で考えたこと	授業の前に自分で考えたこと	授業の前に自分で考えたこと
<p>授業前...新聞を書いてみんなの役に立ったのかな？ 手書きでも頑張ったのがすごいな。</p> <p>授業後...記者の人たちは、みんなを安心させたくて、手書きでも、頑張ったんだと思う。自分の心配はしなかったのかなと思いました。理由は、みんな避難しているのに、記者の人たちは、「やりたい！」ではなく、「やらなくちゃ！」という気持ちでなければ、ここまで新聞を書いてなかったと思う。ここまでして書いたのは、みんなの未来のためだと思います。</p>	<p>授業前...もし、私もこの電車に乗っていたらどんな気持ちだったんだろう・・・</p> <p>・齋藤巡査と吉村 巡査は、自分たちも怖いはずなのに、どうしてみんなを避難させることができたんだろう。</p> <p>授業後...おばあさんは、家族のことがとても大切だということがよく分かった。理由は、自分も危険なはずなのに、家族を待ちたいと言っていたから。小さな子やお年寄りの命のことをかけがえのない命、どうしてすぐに判断分が怖くなっちゃっちゃん</p>	<p>授業前...文男さんも本当はやりたくなかったのかな？</p> <p>「劇はみんなで作り上げるものなんだ。」と自分の気持ちを伝えなくてよかったのか。自分の役割だけでなく、人の役割も手伝ってあげられるといいなと思った。</p>
先生からの問い		
「だれかのために働くこと、役立つことには、どんな意味があるんだろう」	「二人の警察官は、どんな思い、考えがあってこのような行動をとったのだろう」	「役割を果たすために大切な心、行動は何だろう」
<p>みんなの安心のために情報を伝えようと頑張ったんだと思う。みんなとは、家族や地域の人たち、そして自分たちもだと思えます。記者の人たちは、自分よりみんなのことを考えたんだと思う。みんなのことを考えたのは、誰かのために働きたかったんだと思う。</p>	<p>問い...かけがえのない命とは、どんな人たちの命を言うか A：みんな同じだと思う。でも本音は、家族と知らない人のどちらを優先するかと聞かれたら家族を優先してしまうと思う。本当はみんなを助けないといけないのにと考えた。</p> <p>（問いに続いて）だからこそ、この警察官の二人はすごいと思う、それに、新人なのにここまでできることがすごいと思った。自分たちより、周りの人たちの命を優先したから、この行動をとったんだと思う。（警察官として、町やみんなの安全を守りたかったからだと思う。）命を守ることが警察官の仕事という使命を感じていたから、「救わなければならない！」と思ったんだと思います。二人の警察官は、周りの人たちの命をすごく大切にしているんだと思う。</p>	<p>どうして女王役をできなかっただけで、投げやりになってしまったのか？ A：（女王が一番やりたい役だったから。）投げやりにならなくても、「次に劇をやるときには、上手にできるように頑張ろう。」「めぐみのために何ができることはないかな？」など、ポジティブに考えればよかったと思う。そうすれば、自分も相手も気持ちがよく、思い出に残る劇にできたと思う。</p> <p>えり子は、なぜ「文男さんってこんな人だっけ」と思ったのだろう。 A：（普段はあまりやらない人で、あまりにも力を入れてやっていたからだと思う。）←普段やらない人もやっているんだから私もやらなきゃ！と思ったからえり子も自分の役割に力がいったんだと思う。（「森は生きてる」の膜が開いたら、みんながあっと驚くような森の絵を描こう。そう、劇を成功させなくっちゃ。みんなで成功させるのよ。）の言葉の「みんなで成功させるのよ」の言葉から私（えり子）も自分の役割を果たそうという気持ちが伝わってきました。</p>
教師の問いを基に児童が考えを深め、内容項目に迫ることができる。		
クラス、学校の一員として、あなたはどんな役割を果たしますか？		
<p>役割は、誰かのためにやるのが大切だと思いました。だからこそ、自分でやって誰かに任せたいいけない、楽をしてはいけないということが分かりました。役割は、何でも同じ。クラブでも係でも、当番でも委員会でも、すべて同じだと思います。役割は、何かプラスでやるといいと思ったので、これからは何かプラスでやっていきたいです。また、高学年としての役割は、一年生などの下級生へ全校を引っ張ることだと思います。来年は、一番上の学年、6年生として、運動会や委員会を頑張っていきたいです！また、給食当番は、誰かがやらなければ進まないから、いなかったら自分から動いて役割がなくても自分から進んでできるようになりたいです。また、クラスの一員として、「お手本になれる」ような行動ができることを目指して休み時間に走って帰ったり、TPOリーダーじゃなくても声掛けをしたり、基本的な学校のルールを守ったり、五分前行動をしたり、当たり前ことは当たり前にしりたいです！また、役割は最後までやりきることが大切だと「森の絵」で出てきた文男を見て思いました。理由は、相手も自分も「やりたくない」という思いをシェアしあってお互いが気持ちよくなれると思ったからです！</p>		

児童自ら疑問をもつことで問題意識をもちながら教材と向き合うことができる。



- ・テーマを設定して3時間構成のワークシートを一つにまとめることで、児童が各時間のつながりを意識しながら考えを深めることができる。
- ・1時間の成長の様子ではなく、一定のまとまりで児童の成長を継続的に見ることができると、児童の変容や成長を把握しやすくなり、評価につなげることができる。